

主題：神の家また神の都としての召会を建造するための 主の回復の内在的な意義

メッセージ 1

回復の原則、回復に関する預言、回復のための祈り

聖書：マタイ 19:8. エレミヤ 29:10, 14 後半. 30:3. 31:12. 32:29. 33:6-7. ダニエル 9:2-3, 17-19

I. 回復の原則：「初めからそうだったのではない」——マタイ 19:8：

A. マタイ第 19 章 8 節で回復の原則を見ます：

1. 回復とは初めに戻ることを意味します。
2. わたしたちは初めに戻り、主の恵みを受けて神の当初の意図に、神が初めに定めたことに戻る必要があります。

B. 「回復」という言葉は、何かが当初あって、駄目にされ、あるいは失われたことを意味します。ですから、そのものを当初の状態に、また正常な状況に戻す必要があります——ダニエル 1:1-2. エズラ 1:3-11. 6:3-5。

C. 「回復」と「エコノミー」という言葉は、二つの異なる観点から見た一つのことを指しています——I テモテ 1:4. エペソ 1:10. 3:9：

1. 神にとっては、エコノミーの事柄です。わたしたちにとっては、回復の事柄です。
2. 神のエコノミーは使徒たちによって明らかにされましたが、信者たちは神のエコノミーの正しい理解を失ったので、それは回復される必要があります——3-5 節. 使徒 2:42。
3. 主の回復にいるわたしたちは、神のエコノミーの明確なビジョンを持ち、このビジョンによって支配され、制御され、指示されなければなりません。それは、わたしたちがここにおいて、神の回復の中で彼のエコノミーを遂行するためです——26:19. 箴 29:18 前半。

D. わたしたちが召会の回復について語る時、それは、何かが当初あって、それが失われ、あるいは駄目にされたこと、今やそのものを当初の状態に戻す必要があることを意味します——マタイ 16:18：

1. 召会に関して、わたしたちのビジョンは制御されるべきです。それは現在の状況によるのではなく、伝統的な実行によるのでもなく、聖書に啓示されているような神の当初の意図また標準によります——エペソ 2:21-22. 3:3-5. 4:16。
2. わたしたちは召会の回復を、神の意図と達成、またサタンの破壊する働きと関連して理解する必要があります——啓 4:11. ローマ 12:2, 4-5. マタイ 13:31-33：
 - a. 神は目的に満ちた神であり、いったん何かを行なうことを思いに定めると、何も彼の思いを変え、彼をやめさせることはできません——エペソ 3:10-11。
 - b. サタンによってひき起こされた破壊の後、神がやって来て以前に行なったことを再び行ない、何であれ敵によって破壊されてしまったものを戻します。これが主の回復です。

II. 回復に関する預言：「バビロンで七十年が満ちる時、わたしはあなたがたを訪れ、わたしの良き言葉をあなたがたに確立して、あなたがたをこの所に帰らせる」——エレ

ミヤ 29:10 :

- A. 「わたしはあなたがたの捕囚を帰らせ、あなたがたを、すべての諸国民から、あなたがたを追いやったすべての場所から集めると、エホバは言われる。わたしはあなたがたを、そこから引いて行ったその元の所へ帰らせる」—— 14 節後半。
- B. 「エホバは言われる、まことに、その日が来る。その時わたしは、わたしの民イスラエルとユダの捕らわれ人に戻ると、エホバは言われる。わたしは彼らを、その父祖たちに与えた地に帰らせる。そして彼らはそれを所有する」—— 30:3。
- C. 「彼らは来て、シオンの高根で歌う。／彼らはエホバの良きものに向かって流れ出る」—— 31:12 前半。
- D. 「わたしは……彼らに一つの心と一つの道を与えて、常にわたしを恐れさせる」—— 32:39 前半。
- E. 「わたしは回復といやしを [エルサレムに] もたらして、彼らをいやす。またわたしは彼らに平安と真実の豊かさを示す。わたしはユダの捕らわれ人とイスラエルの捕らわれ人を帰し、以前の時のように彼らを建て上げる—— 33:6-7。
- F. 「その日、ユダは救われ、エルサレムは安らかに住む。この町は『エホバはわたしたちの義』という名で呼ばれる」—— 16 節。
- G. 第 25 章 11 節と第 29 章 10 節から 14 節の主の言葉はエレミヤへの慰めであり、イスラエルの捕囚がただ七十年続くだけであることを確証しました：

- 1. 捕らわれた者の何人かは、ダニエルのように、七十年が満ちた時なおも生きていました——ダニエル 1:21. 6:28。
- 2. 神は民を放棄して捕らわれ人としたように、彼らを戻します。それは捕囚としてではなく、勝ち誇った戦士としてです。

Ⅲ. 回復のための祈り：「わたし、ダニエルは、預言者エレミヤに臨んだエホバの言葉として来た聖書によって、エルサレムの荒廢の満了の年数は、七十年であることを理解した。そこでわたしは、主なる神に顔を向けて、祈り、断食と荒布と灰をもって嘆願し、彼に求めた」——ダニエル 9:2-3 :

- A. ダニエルは、イスラエルの子たちが七十年間、バビロンの王に仕えるというエレミヤの預言を読みました。この言葉に立って、彼は何度もこの預言の成就のために、また捕囚の期間のために、祈らなければなりません——エレミヤ 25:11. ダニエル 9:2 後半。
- B. ダニエルはバビロンの捕囚でしたが、彼の心は完全に神と、地上での神の王国のための神の民、神の宮、神の聖なる都にありました。彼は霊の中において、神への祈りと嘆願に完全に占有されていました—— 2 節後半-23 節：
 - 1. ダニエルは彼の真剣な祈りの中で、神が聖地を回復し、彼の民を戻し、聖なる都を再建してくださるようにと求めました—— 16-19 節。
 - 2. 17 節でダニエルの祈りは最高峰に達しました：「わたしたちの神よ、今、あなたのもべの祈りと願いを聞いて、主のために、あなたの荒れ果てた聖所の上にあなたの御顔を輝かせてください」。